鹿児島県総合教育センター
平成22年度長期研修報告書

研究主題

習得した知識・技能を活用する力をはぐくむ国語科指導の在り方

－ 文学的な文章の指導における言語活動の工夫を通して －

薩摩川内市立永利小学校
教　諭　　芝　　智　史

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　研究のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　3　研究の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　1　研究主題に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　(1)　文学的な文章の指導で習得させる「知識・技能」とは・・・・・・・・・・・・・2
　(2)　文学的な文章の指導を通して「習得した知識・技能を活用する」とは・・・・・3
　(3)　文学的な文章の指導における「言語活動の工夫」とは・・・・・・・・・・・・・4
　2　国語科学習に関する教師の意識調査と子どもの実態調査の分析と考察・・・・・・5
　(1)　習得した知識・技能を活用する文学的な文章の指導に関する教師の課題・・・・5
　(2)　学力検査結果からみる子どもの課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　(3)　調査結果から設定した研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　3　習得した知識・技能を活用する国語科授業の構想・・・・・・・・・・・・・・・7
　(1)　基礎的・基本的な知識・技能の内容と系統の具体化・・・・・・・・・・・・・・7
　(2)　基礎的・基本的な知識・技能と有効に関連する言語活動の具体化・・・・・・・9
　(3)　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る単元の具体化・・・・・・・・11
　(4)　基礎的・基本的な知識・技能の効果的な習得と活用を図る学習過程の工夫・・・12
　(5)　習得と活用を図る一単位時間の指導における具体的な手だての工夫・・・・・・15
　4　検証授業Ⅰにおける検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　(1)　検証授業Ⅰの単元名及び実施学年等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　(2)　検証授業Ⅰのねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　(3)　検証授業Ⅰの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　(4)　検証の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　(5)　検証授業Ⅰの成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　5　検証授業Ⅱにおける検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　(1)　検証授業Ⅱの単元名及び実施学年等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　(2)　検証授業Ⅱのねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　(3)　検証授業Ⅱの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　(4)　指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
　(5)　検証の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
　(6)　検証授業Ⅱの成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

Ⅳ　研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　1　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　2　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

Ⅰ　研究主題設定の理由

「知識基盤社会」といわれる新しい知識・情報・技術があらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す現代社会において，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力が求められている。このような状況を踏まえ，学習指導要領では，基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることと，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視することが改訂の基本方針の一つとして挙げられた。小学校国語科においては，基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けるために，言語活動の充実を図ることが求められている。

子どもの実態を見ると，平成20年度全国学力・学習状況調査の本県の結果は，国語Ｂ「活用」の平均正答率が，国語Ａ「知識」の平均正答率を約16ポイント下回った。さらに，国語Ｂの結果を領域別に見ると，三つの領域の中で「Ｃ読むこと」の正答率が一番低いことが分かった。本校の児童にも，本県の結果と同様の傾向がみられる。また，国語科で教材文を読んで学習したことを生かして他の文章を読んだり，自分の表現に生かして書いたり話したりすることを苦手にしており，国語科で身に付けてきたはずの力が学校生活において十分に活用されているとはいえない。

これらの課題に対応するために，「読むこと」領域の説明的な文章の指導においては，鍵となる言葉や表現，文章構成を押さえながら教材文や他の文章を読む活動や，読んだことを基に話し合ったり教材文をモデルに文章を書いたりするなどの言語活動を取り入れてきた。そのことで，説明的な文章を読んで習得した知識や技能を活用する力が少しずつではあるが子どもの中に育ってきている。

しかし，文学的な文章の指導においては，教材での読みを他の文章での読みや自分の表現に活用できる力を十分に身に付けさせることができていない。その要因として，教材文の内容を深く読ませることが大切であるという考え方に偏り，文学的な教材を読むことを通してどんな力を身に付けさせたいかを明確にした指導ができなかったことが考えられる。また，設定した言語活動が，教材文と内容面では関連しているものの，子どもが教材文で身に付けた知識・技能をどのように生かしていくのかという面での関連性が薄いものであったことも考えられる。

これらのことから，文学的な文章の指導において，どのような力を，どの段階にどのような方法で習得させていくか，習得させた力をどのような言語活動で活用させていくのかを明らかにすることが必要であると考える。特に言語活動においては，習得が活用を促し，活用が習得をより確かなものにするよう，その活動内容や単元における位置付けを明らかにすることが重要である。

そこで，文学的な文章の指導において，習得すべき基礎的・基本的な知識・技能の具体的内容とその系統を明らかにし，それらを有効に活用できるような言語活動の設定と単元の学習過程における効果的な位置付けを工夫改善すれば，習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する子どもを育成できると考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究の構想

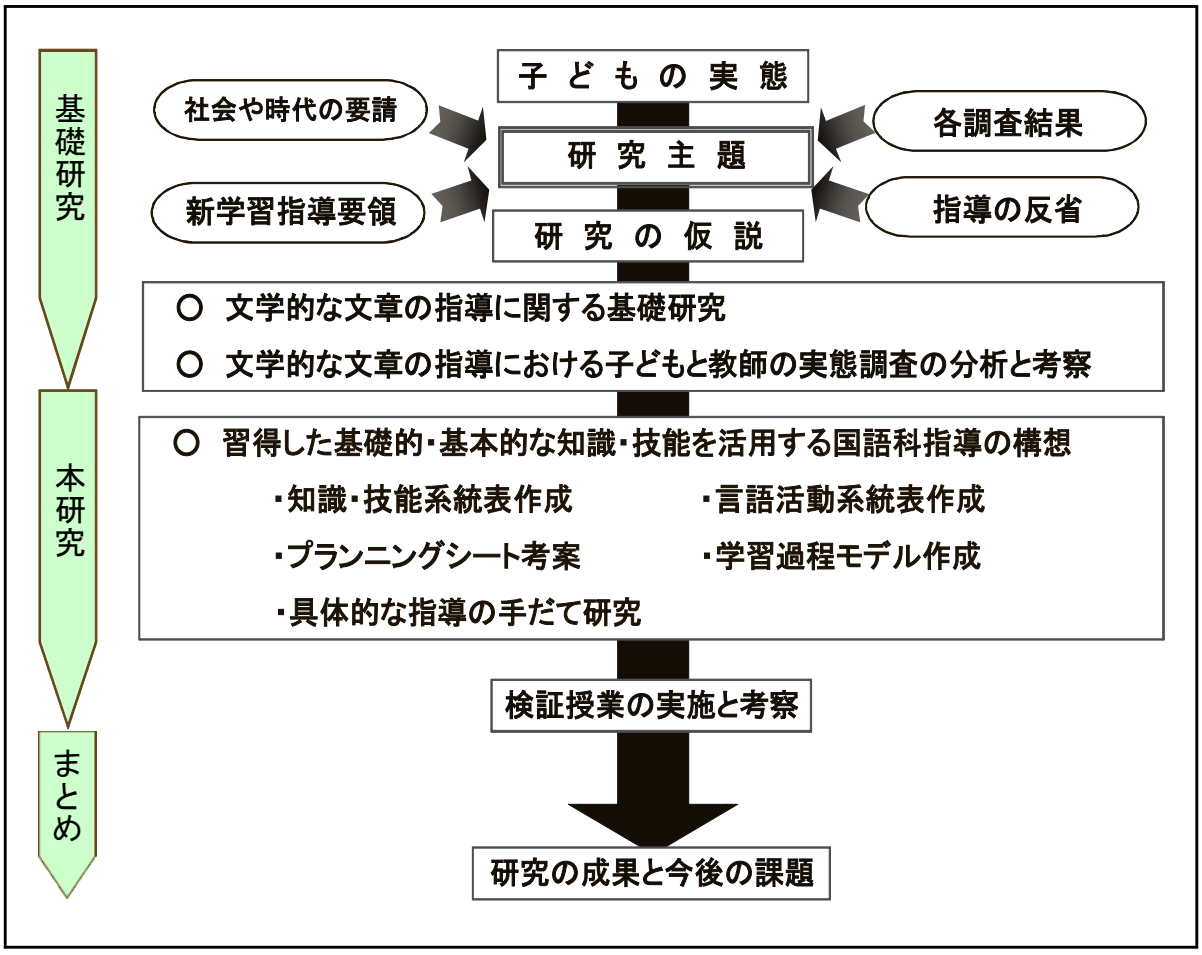
１　研究のねらい

(1)　学習指導要領や参考文献等を基に，研究主題についての基本的な考え方を明らかにする。
(2)　子どもと教師を対象とした実態調査から，指導上の課題を明らかにする。
(3)　基礎的・基本的な知識・技能の具体的な内容と系統を明らかにする。
(4)　習得した基礎的・基本的な知識・技能を有効に活用できる言語活動の具体化を図るとともに，単元の学習過程における効果的な位置付けを明らかにする。
(5)　子どもが習得した知識・技能を活用できる具体的な指導の手だてを明らかにする。
(6)　検証授業の分析を基に，研究の成果と今後の課題を明らかにする。

2　研究の仮説

文学的な文章の指導において，習得する基礎的・基本的な知識・技能と有効に関連する言語活動を設定し，単元の学習過程に効果的に位置付けるならば，子どもは習得した知識・技能を活用する力を身に付けることができるであろう。

3　研究の計画



Ⅲ　研究の実際

1　研究主題に関する基本的な考え方

(1)　文学的な文章の指導で習得させる「知識・技能」とは

新学習指導要領における国語科改善の基本方針では，「言語の教育としての立場を一層重視し，（中略）実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」が重点の一つとして述べられている。

これまでの文学的な文章の指導を振り返ると，教材間のつながりや系統性を明確にできないまま，一つの作品を時間を掛けてじっくり読ませたり，子どもに「おもしろかった」「感動した」などの感想をもたせたりするような授業を行ってきた。子どもたちに一つの作品の内容を理解させたり，内容理解を通して共感・感動を覚えさせたりすることはもちろん否定されるものでない。しかし，それに終始していては，「実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」にはならないと考える。国語科の他領域や他教科と同じように，文学的な文章の指導においても，子どもが学習後に出会う他の文章の理解，読書活動，自己表現に活用できる知識・技能を段階的・系統的に指導することが必要であり，それを踏まえた上で教材として取り扱う作品のよさを味わわせることが大切である。

鶴田清司（2008）は，文学的な文章の授業で指導する内容を，ａ〈教材内容〉，ｂ〈教科内容〉，ｃ〈教育内容〉の三つのレベルに設定した。[*1)]

ａ〈教材内容〉･･･	教材特有の内容。作品名，作者名はもとより，表現されている内容（筋・人物・事件・主題など）について理解させることを目指す。
ｂ〈教科内容〉･･･	各教科の基礎になっている学問の体系（科学的な事実・概念・法則・技術など）が指導事項の中心になる。国語科（文学領域）でいえば，文学表現の原理・方法及びそれに基づいた「読みの技術」。ａよりも一般的・法則的な内容である。
ｃ〈教育内容〉･･･	ｂよりももっと広く，教科の枠組みを超えて指導するもの。文学的な文章の指導では，特に人間の真実や本質，さらに人間としての生き方などの価値的な部分も含まれてくる。それは科学という枠を超えて，文化・社会・道徳などの広範囲な指導事項に及ぶ。

そして，文学的な文章の指導において，「①ａのレベル（教材を教える）にとどまってはならないこと，②国語科である以上は必ずｂを指導すること，③ｂまたはｃを指導するときは必ずａをふまえること（作品の豊かな理解が前提），④ｃを指導するときは必ずｂを含むこと（国語の学習が前提）」の四つが大切であると述べている。

これまでの文学的な文章の指導が，ａ〈教材内容〉やｃ〈教育内容〉の指導に偏りがちであったことを見直し，段階的・系統的なｂ〈教科内容〉の習得と活用を学習の中心に据えることが重要であると考える。

本研究では，鶴田の述べたｂ〈教科内容〉を，文学的な文章の指導で習得させる「知識・技能」ととらえる。そして，新学習指導要領・国語科「Ｃ読むこと」領域において，二学年ごとに段階的・系統的に示された指導事項の具体的な内容を，「基礎的・基本的な知識・技能」ととらえる。

(2)　文学的な文章の指導を通して「習得した知識・技能を活用する」とは

「習得した知識や技能を活用する」とは，子どもが学習経験を通して得たものを，他者との認識を共有するために，自分なりの実感や納得をもって表現したり，他の学びでも生かしたりすることであると考える。そこで，文学的な文章の学習で習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する子どもの具体的な姿を次の三つに整理した。

ア　教材文を読んだ経験を活用し，自分の読書経験を広げる子ども　（読書生活への活用）

イ　習得した読みの知識や技能を活用し，作品を読み味わう子ども
（作品分析・解釈への活用）

ウ　教材文の文章構成や優れた表現技法を活用し，自分の思いを効果的に相手に伝えるために，話したり書いたりする子ども　（自己表現への活用）

これら三つの姿の具現化を図る文学的な文章の指導を通して，子どもの日常生活に必要な国語の能力の育成が図られると考える（次頁**図１**）。

＊1）　柴田義松・阿部昇・鶴田清司編著　　『あたらしい国語科指導法　改訂版』2008 学文社

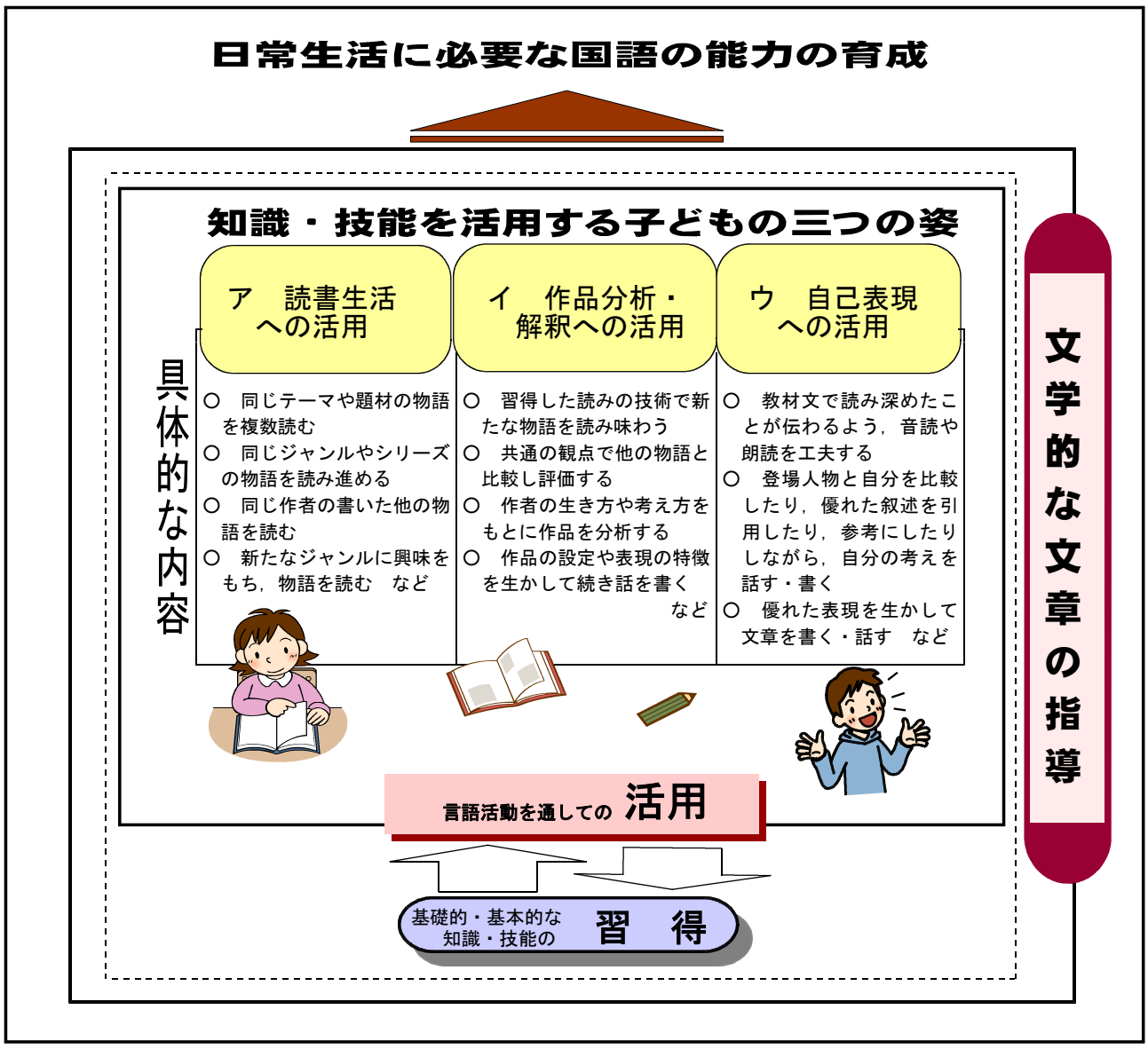


図１　文学的な文章の指導を通して習得した知識・技能を活用する子どもの三つの姿

(3)　文学的な文章の指導における「言語活動の工夫」とは

習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう，学校や子どもの実態に応じて，様々な言語活動を工夫し，その充実を図っていくことが重要である。

文学的な文章の指導における言語活動についてのこれまでの反省は，主題設定の理由においても簡単に述べた。教材と内容面での関連は一応図られているので，表現の楽しさは何となく味わえるものの，それによって子どもにどんな読みの力が身に付いたのかが教師も子どもも実感できない言語活動を設定してきたことが多かった。

新学習指導要領・国語科では，各領域の内容の(2)に，指導事項を指導する際の具体的な言語活動が例示してある。これらの言語活動例を参考にしながら，「読書生活への活用」「作品分析・解釈への活用」「自己表現への活用」を図る言語活動を次の二つの点で工夫したい。

まず，文学的な文章の学習において，子どもたちが出会う教材の読みを通して習得させる基礎的・基本的な知識・技能を明確にし，それらと有効に関連する言語活動を設定するということである。つまり，知識・技能の内容と，単元を貫く言語活動の特性を結びつけるということである。習得させる基礎的・基本的な知識・技能と言語活動の特性との関連の在り方を次頁**図２**に示す。

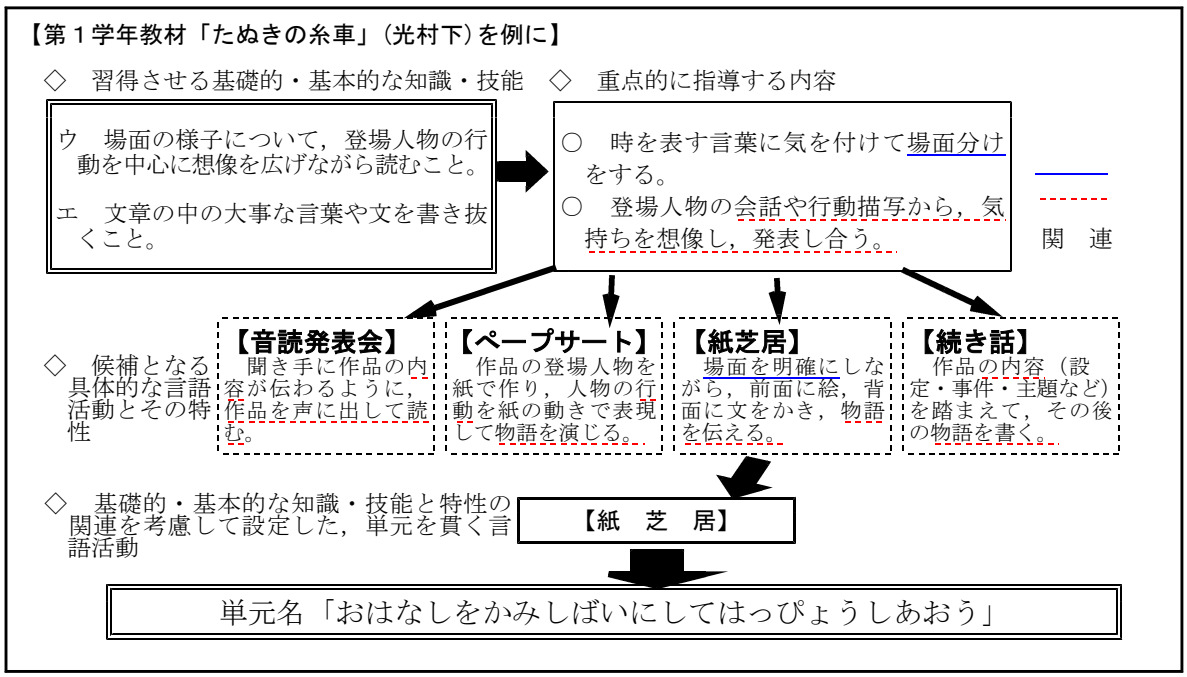


図２　習得させる知識・技能と，言語活動の特性との関連

次に，単元の学習過程における，言語活動の位置付けを工夫するということである。これまでの文学的な文章の単元構成は「教材文の読み(習得の場)→言語活動(活用の場)」という流れになりがちであった。そこで，活用を通して習得の動機付けを行ったり，段階的な活用を通して習得の状況を振り返り更なる活用への意欲をもたせたりするような学習の流れになるよう，言語活動の効果的な位置付けを図った指導計画づくりが必要であると考える。

２　国語科学習に関する教師の意識調査と子どもの実態調査の分析と考察

（アンケート実施　平成22年６月　対象　薩摩川内市立永利小学校　教師16人
標準学力検査ＮＲＴ実施　平成22年４月　対象　薩摩川内市立永利小学校４・５年生127人）

(1)　習得した知識・技能を活用する文学的な文章の指導に関する教師の課題

本校では，平成18・19年度の２年間，国語力向上について研究を行ってきた。その成果もあり，**図３**のＡからは，文学的な文章の指導において基礎的・基本的な知識・技能を明確にしながら指導を行おうとする教師の意識が高いことが分かる。しかし，Ａと比較してＢでは，基礎的・基本的な知識・技能をどのように具体的に指導するか教師自身が明確にできていないことが分かる。その結果，子どもが習得した知識・技能を活用できていないと感じていることが**表１**からうかがえる。特に，「教材文で学習した読みの方法を他の文章で活用できない」，「教材文で学んだ表現技法を自分の話す・書く際の表現技法として活用できていない」と感じていることが分かる。

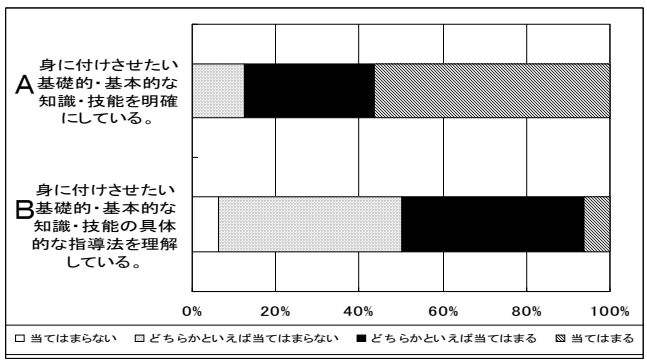


図３　　知識・技能の指導に関する意識

表１　教師が，子どもたちに不足していると思う力
（数字は，複数回答による人数の割合：％）

教材文と同じテーマの作品や同じ作者の作品などを読書する力	18.8
文章に書かれた内容や表現を手がかりに，登場人物の心情や場面について想像する力	25.0
語の意味や内容が伝わるように音読や朗読をする力	37.5
目的に応じて本や文章を比べて読むなど，効果的な読み方を工夫する力	50.0
教材文で学習した読む方法を，他の文章でも生かして読む力	62.5
教材文にある表現方法を自分の話す・書く表現に生かす力	62.5

言語活動については，全員が単元に位置付けて指導を行っている。**図４**から，教師は，言語活動を設定する際に子どもの関心・意欲との関連や，教材文の内容との関連に特に留意していることが分かる。それと比較すると，言語活動と習得させる基礎的・基本的な知識・技能と言語活動との関連についてはあまり留意されていないことが分かる。

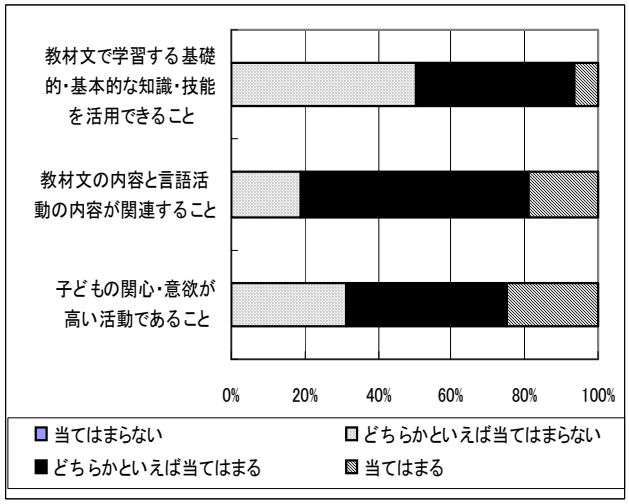


図４　教師が言語活動を設定する際，留意していること

(2)　学力検査結果からみる子どもの課題

図５は，平成22年４月に実施した標準学力検査（ＮＲＴ）における文学的な文章に関する問題の本校の正答率である。

４年生，５年生とも，ほとんどの問題で正答率が60％を下回っていることが分かる。４年生は，特に「気持ちを音読で表現する」，「叙述に即して主人公の行動を読む」，「時間の経過をとらえて場面分けをする」問題に，５年生は，特に「文脈から言葉の意味をとらえて心情を読む」，「設定をとらえて場面の様子を読む」問題につまずきが見られ，前学年までに学習した知識・技能の定着が図られていない。

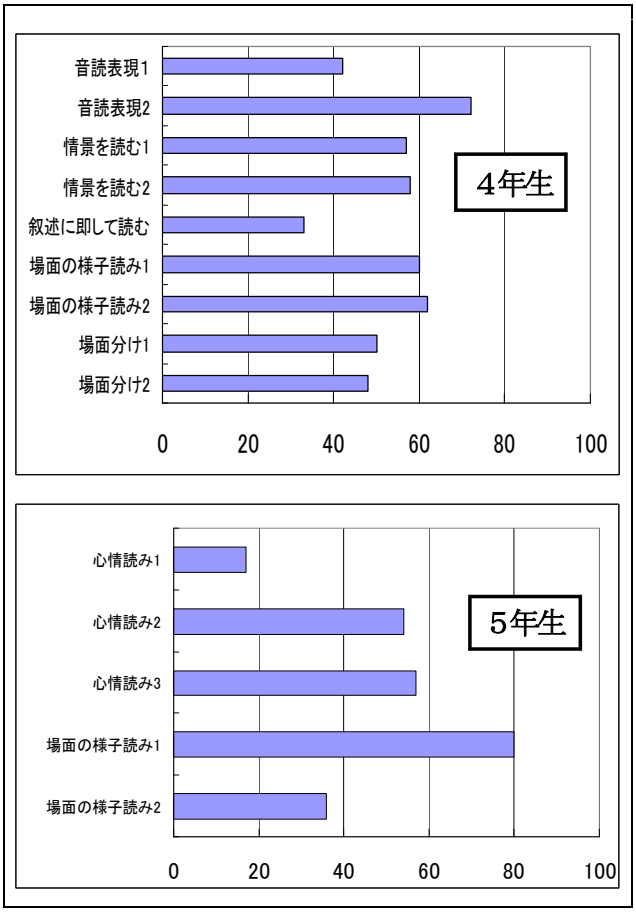


図５　学力検査ＮＲＴによる子どもの実態（数字は正答率：％）

(3)　調査結果から設定した研究の視点

以上のことから，文学的な文章の指導においては，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに，教材で学んだ読みの方法を生かして様々な作品を読み進めたり，教材文の表現のよさを自分の表現に生かしたりする言語活動を工夫した単元構成を行う必要があると考える。そのためには，習得・活用する基礎的・基本的な知識・技能を更に具体化・重点化し，言語活動との関連を図る必要がある。また，子どもが単元を通して学習する目的意識をもち，知識・技能の習得と活用がより確実になされるよう，単元における言語活動の位置付けを工夫する必要がある。さらに，習得と活用を促すような一単位時間における具体的な手だてを工夫する必要がある。研究の視点は，次の５点である。

1　基礎的・基本的な知識・技能の内容と系統を具体化する。
2　基礎的・基本的な知識・技能と有効に関連する言語活動を具体化する。
3　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る単元を具体化する。
4　基礎的・基本的な知識・技能の効果的な習得と活用を図る学習過程を工夫する。
5　習得と活用を図る一単位時間の指導における具体的手だてを工夫する。

3　習得した知識・技能を活用する国語科授業の構想

(1)　基礎的・基本的な知識・技能の内容と系統の具体化（基礎的・基本的な知識・技能系統表）

学習指導要領に示された指導事項（＝基礎的・基本的な知識・技能）は，そのままの内容では，具体的な指導がイメージしにくいと考える。また，一つの単元に多くの指導事項を詰め込むのではなく，精選し，重点化することで指導が効果的に行えると考える。そこで，学習指導要領に示された指導事項のより具体的な内容と系統，各学年の各教材を使って重点的に指導する内容を明らかにするために，学習指導要領や先行研究を参考にしながら，文学的な文章の指導における「基礎的・基本的な知識・技能系統表」を作成した（**表２**）。

表２　文学的な文章の学習で習得させる「基礎的・基本的な知識・技能系統表」

		第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年
音読		**ア　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。**	**ア　内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。**	**ア　自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。**
	音読	①　句読点や会話文に気を付け，語句を，意味のまとまりとしてとらえながら，正しくはっきりとした発音で読む。	①　場面の情景や人物の気持ちを，強弱・抑揚・速さ・間・リズムなどで表現しながら読む。	①　作品を読んだ自分なりの解釈や感動が相手に伝わるよう，表現を工夫して読む。
	黙読		②　文章の展開に即して事柄を関連付けたり，重要な箇所を見つけたりしながら読む。	
効果的な読み				**イ　目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。**
	読書法			①　比べ読み，速読，摘読，多読などの読み方の中から，目的に応じて読み方を選択する。
文学的な文章の解釈		**ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。**	**ウ　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。**	**エ　登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。**
	構成	①　登場人物をさがし，中心人物・対人物をおさえる。 ②　設定（時，人，場所）をとらえる。 ③　挿絵や場面の変化を表す言葉に気を付けて場面分けをする。 ④　場面ごとにあらすじをとらえる。	①　登場人物の性格・境遇・状況をとらえる。 ②　場面のつながりを考えながら，起承転結で場面分けをし，クライマックスをとらえる。 ③　物語全体のあらすじをとらえる。 ④　ジャンル意識をもつ。	①　登場人物の相互関係から，人物像やその役割をとらえる。 ②　構成の仕方による効果を考える。
		⑤　題名から内容を想像する。	⑤　題名の効果について考える。	③　題名と主題との結び付きを考える。
	表現	⑥　挿絵や写真，会話，行動から人物の動きや気持ち，場面の様子をイメージする。	⑥　場面や情景の移り変わりとともに変化した人物の気持ちを地の文や行動，会話からとらえる。	④　人物の心情と重なり合う情景描写に気付き，その効果を考える。 ⑤　象徴性や暗示性の感じさせたりメッセージや題材を強く意識させたりする表現に気付き，考えをまとめる。
		⑦　反復，対比，オノマトペ，直喩表現などのおもしろさに気付く。	⑦　比喩・擬人法・オノマトペ・類比・対比・倒置法・文末表現・色彩語などの表現の効果について考え，自分の表現に生かす。	⑥　効果的な表現方法を自分の表現に生かす。
	視点	⑧　作者と語り手を区別する。	⑧　一人称と三人称を区別する。	⑦　三人称視点を限定，全知，客観で区別する。
			⑨　視点の転換をとらえる。	
考えの形成及び交流		**エ　文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。** **オ　文章の内容と自分の経験とを結びつけて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。**	**エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。** **オ　文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。**	**オ　本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。**
	形成	①　大事な言葉や文を適切に書き抜き，自分の感じたことや経験したこと思ったことなどを書き添える。	①　人物や情景の叙述の一部を引用し，引用した部分について自分の思いや考えを書く。	①　課題について調べ，考えたことを意見や推薦などの文章でまとめる。
	交流	②　読んだ内容について，自分の知識や経験，読書体験と結びつけながら感想を発表し合う。	②　文章を読んで考えたことについて，一人一人の感じ方に違いがあることを大切にしながら交流し，相手の感じ方の根拠と自分の感じ方の根拠を比べる。	②　交流を通して，それぞれの考えとの共通点や相違点を明らかにし，自分の考えを広げたり深めたりする。
目的に応じた読書		**カ　楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。**	**カ　目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。**	**カ　目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。**
	検索	①　題名や挿絵，目次，作者を手がかりに本を探す。	①　学校図書館などの施設の利用法を知る。	①　様々なメディアの活用の仕方，情報モラル，十進分類法などの知識，索引の使い方などを理解する。
	読書	②　昔話や童話などの読み聞かせ・ストーリーテリングを通して，読書に興味をもつ。	②　読みたい内容や書き手を絞って複数の本を読む。	②　課題を解決するために，違う書き手が執筆した本や文章，同じ書き手の本や文章を読む。 ③　課題を解決するために，図書，新聞インターネットなど様々な資料を活用する。

↓系統表続き

	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
教材名・重点的に指導する内容	【はなのみち】 ○　題名と挿絵を基に，内容を想像する。　ウ－⑤ ○　登場人物を挙げる。　ウ－① ○　挿絵と文章を関連付け，場面の様子を説明したり，登場人物の会話を想像したりする。　ウ－⑥ 【おむすびころりん】 ○　語のまとまりに気を付けて，リズムよく音読する。　ア－① 【大きなかぶ】 ○　反復の表現から場面の様子や登場人物の気持ちを想像し，音読を工夫する。　ア－① ウ－⑦ 【くじらぐも】 ○　話の設定を整理する。　ウ－② ○　反復のある会話文や叙述から場面や人物の様子を想像し，動作化や音読を工夫する。　ア－① ウ－⑥ 【ずうっと，ずっと，大すきだよ】 ○　語り手の存在に気付く。　ウ－⑧ ○　心に残った場面について，紹介する。　エ，オ－② ○　好きな本について，観点に沿って紹介する。　エオ－②　カ－①② 【たぬきの糸車】 ○　時を表す言葉に気を付けて場面分けをする。ウ－③ ○　登場人物の会話や行動描写から，気持ちを想像し発表し合う。　ウ－⑥　エ，オ－①	【ふきのとう】 ○　場面ごとに設定を整理し，あらすじをとらえる。　ウ－②③④ ○　叙述を手がかりに，場面の様子や登場人物の気持ちが相手に伝わるように音読（群読）を工夫する。　ア－①　ウ－⑥ 【スイミー】 ○　直喩や対比のおもしろさについて話し合い，自分の表現に生かす。　ウ－⑦　エオ－① ○　図書室で探した本について，心に残った場面を中心に紹介する。　エオ－②　カ－① 【お手紙】 ○　中心人物，対人物を整理し，それぞれの人物像をとらえる。　ウ－① ○　場面を対比させながら，叙述を手がかりに人物の気持ちを想像する。　ウ－⑥ ○　登場人物や出来事に注目しながらシリーズを読む。　カ－① 【スーホの白い馬】 ○　人物の様子や気持ちを生き生きと伝える表現や叙述について話し合う。　ウ－⑥　エオ－①②	【きつつきの商売】 ○　オノマトペから場面の様子についてイメージを広げ，相手に伝わるように音読を工夫する。　ア－①　ウ－⑦　エオ－② ○　オノマトペを自分の表現に生かす。　ウ－⑦ 【三年とうげ】 ○　起承転結で場面分けをし，クライマックスをとらえる。　ウ－② ○　物語全体を一文で表す。　ア－②　ウ－③ ○　世界の民話を読み，そのおもしろさが伝わるように工夫して紹介する。　エオ－①　カ－①② 【ちいちゃんのかげおくり】 ○　題名の意味を考えたり，場面を対比させたりしながら，登場人物の境遇や心情の変化をとらえる。　ア－②　ウ－①⑤⑥ ○　心に残った場面を引用し，心に残った理由を交流する。　エオ－①② 【モチモチの木】 ○　登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりとともに整理する。　ア－②　ウ－⑥	【三つのお願い】 ○　一人称視点から人物の心情をとらえ，音読を工夫する。　ア－①　ウ－⑥⑧ ○　題名や鍵になる言葉を手がかりに場面を整理し，比べる。　ア－②　ウ－②⑤ ○　主人公の体験と自分の体験を重ね合わせて思いや考えを書き，交流して比べる。　エオ－①② 【白いぼうし】 ○　ファンタジーの構造を理解する。　ウ－④ ○　作者の表現の工夫をとらえる。　ア－②　ウ－⑤⑥⑦ ○　同ジャンルの作品を共通の観点で複数読み，交流し比べ合う。　カ－②　エオ－② 【一つの花】 ○　題名や鍵になる言葉に込められた登場人物の思いを，叙述を根拠に考え交流し，比べる。　ア－②　ウ－⑤⑥　エオ－①② ○　対比を通して，場面設定や人物の境遇や状況を考える。　ウ－①⑥⑦ 【ごんぎつね】 ○　場面の移り変わりとともに変化していく主人公の気持ちを叙述を根拠にとらえ，交流し，比べ合う。　ア－②ウ－⑥　エオ－①② ○　視点の転換をとらえ，その効果について考える。　ウ－⑨	【新しい友達】 ○　登場人物の心情の変化と，心の転換点をとらえ，朗読に生かす。　ア－①　エ－①④ ○　主人公の心情について，共感したり疑問に思ったりしたことを交流し，考えを広げたり深めたりする。　オ－①② 【千年の釘にいどむ】 ○　伝記やノンフィクション作品を読み，人物のよさを要約や引用などを使って紹介し合い，自分の考えを広げたり深めたりする。　イ－①　エ－①　オ－②　カ－③ 【わらぐつの中の神様】 ○　会話や行動描写から，登場人物の生き方や考え方について交流し，自分の考えを深める。　エ－①③⑤　オ－② ○　文章構成や文章表現の工夫による効果を自分の表現に生かす。　エ－②④⑥ 【大造じいさんとガン】 ○　人物の心情と重なり合う情景描写や色彩語の効果について交流し，考えを広げたり深めたりする　エ－④　オ－② ○　クライマックスの前後における主人公の心の変容をつかむ。　ア－①　エ－⑦	【カレーライス】 ○　象徴される言葉にこめられた意味について交流し，自分の考えを深める。　エ－⑤　オ－①② ○　選んだ場面について視点を変えて文章を書き直したり，作品の表現技法を生かして短い物語を書いたりする。　エ－⑥⑦　オ－② 【森へ】 ○　効果的な表現について，感じたことや想像したことを交流し，考えを深めたり広げたりする。　エ－④⑥ ○　方法を工夫し，いろいろな作品を推薦する。　イ－①　オ－①②　カ－①② 【やまなし】 ○　二つの場面の設定や出来事，文章表現を対比しながら読み，作品の主題について交流し考えを広げたり深めたりする。　エ－②③④⑤ ○　比喩・擬人法などの表現技法の効果について考え，自分の表現に生かす。　エ－⑥ 【海の命】 ○　主人公の変容の理由を，その伏線となった出来事や登場人物の影響と関連付けながらとらえる。　エ－①④⑤ ○　いろいろな作品から人物像をとらえて文章にまとめ交流し，考えを広げたり深めたりする。　エ－①　オ－①②　カ－②

各教材で重点的に指導する内容は，指導事項を踏まえ，それぞれの文章特性を分析した上で具体化・重点化した。そして，各指導事項を，年間あるいは２年間を通して系統的・段階的に指導できるよう留意した。

この表により，基礎的・基本的な知識・技能の具体的内容と小学校６年間を通した系統，それらを踏まえた各単元での重点的に指導する内容を俯瞰することができると考える。

(2)　基礎的・基本的な知識・技能と有効に関連する言語活動の具体化（言語活動系統表）

言語活動と習得させる基礎的・基本的な知識・技能を有効に関連付けるために，まずそれぞれの言語活動がどのような言語能力をはぐくむことに適しているかを明確にすることが必要であると考えた。そこで，文学的な文章の指導において設定する各言語活動について，そのねらい，領域，特性，学年ごとの活動内容や系統を明らかにするために，「言語活動系統表」を作成した（**表３－１～４**）。

この表を作成することで，各単元において，子どもが習得した知識・技能を活用する最適な言語活動の絞り込みを，そのねらいや特性，系統を確認しながら行えるようになると考える。

表３－１　言語活動系統表「音読・朗読をもとに発表する」

内容　**音読・朗読をもとに発表する**

学習指導要領に示された言語活動例との関連→			イ　物語の読み聞かせを聞いたり，物語を演じたりすること					
ねらい	領域	言語活動とその特性	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年
作品について読み取ったことを声に出して読んで伝える。	話す	**【音読発表会】** 聞き手に作品の内容が伝わるように，声に出して読む。	聞き手を意識しながら，声の出し方や簡単な身体表現などを工夫して楽しく発表する。		聞き手に読み取ったことが伝わるように地の文や会話文の読み方を工夫して発表する。		→	→
		【朗読発表会】 聞き手に作品の内容や読み手のイメージが伝わるように声に出して読む。					相手・時・場にあわせて，心情，場面，表現について読み手の思いが相手に伝わるように工夫して発表する。	
		【群読発表会】 作品の内容を効果的に伝えるために，二人以上で分担して声に出して読む。	読み取ったことをもとに，役割を分担したり，人数を工夫したりしながら，言葉の繰り返しやリズムを楽しみながら読む。		読み取ったことをもとに，大事な言葉を繰り返したり，輪唱したり，人数を増減させたりしながら読む。		作品のよさやイメージが聞き手に伝わるように，人数を工夫したり，フレーズを重ねたり繰り返したり，読む速さを工夫したりしながら読む。	
作品について読み取ったことを，音声，身体表現，道具などを組み合わせて話す。	話す	**【パネルシアター】** パネル板を使って，絵人形を貼ったり外したりしながら，物語を語る。聞き手とのコミュニケーションがとりやすい。	叙述に沿って，人物の位置や行動を想像し，動かしながら読む。		場面の移り変わりが分かるように，人物の動かし方と台詞のタイミング，背景などを工夫する。		→	→
		【ペープサート】 作品の登場人物を紙で作り，人物の行動を紙の動きで表現して物語を演じる。	叙述に沿って，人物の動きを想像して動かしながら読む。		場面の移り変わりが分かるように，人物の動かし方や台詞，背景などを工夫する。		→	→
		【紙芝居】 場面を明確にしながら，前面に絵，背面に文をかき，物語を伝える。	挿絵と叙述をもとに場面を分け，場面にあった文をつけて作る。	挿絵や叙述を手掛かりに場面を分け，地の文や会話文を付け加えながら作る。	作品のおもしろさが伝わるように，場面の移り変わりや人物の行動，気持ちを付け加えながら作る。	作品の山場を意識して，場面の移り変わりや人物の行動，気持ちを付け加えながら作る。	情景や，登場人物の心情，人柄が伝わるように絵や文を工夫して作る。	優れた描写を生かしながら人物の生き方が伝わるように再構成して作る。
		【劇・台本作り】 作品の登場人物になりきって，特定の場面，あるいは物語全体を演じる。また，そのための脚本を作る。	登場人物のしたことを思い浮かべながら読み，役割を決めて身体表現をする。	場面の状況や登場人物の行動，気持ちを読み取ったことが表れるように身体表現する。	人物の気持ちや行動を想像して，ト書を書き込んだり身体表現したりする。	人物の気持ちを考えて，文章を書き換えてシナリオを書いたり身体表現したりする。	読み取った人物の心情の変化や性格，生き方などが分かるようにシナリオを作り，それに沿って身体表現する。	

表３－２　言語活動系統表「紹介・推薦する」

内容　紹介・推薦する

学習指導要領に示された言語活動例との関連→			オ　読んだ本について，好きなところを紹介すること		オ　紹介したい本を取り上げて説明すること		オ　本を読んで推薦の文章を書くこと	
ねらい	領域	言語活動とその特性	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年
作品をいくつかの視点で分析してその内容を伝える。	話す	**【本の紹介スピーチ】** 読んだ本について，観点に沿って紹介する。	題名，作者名，いちばん好きなところを話す。	題名，作者名，登場人物，あらすじ，好きなところや心に残ったところを話す。	紹介したい中心を決め，心に残る言葉や表現をとりあげたりしながら，呼びかけや問いかけの言葉，強弱，間などの話し方を工夫して話す。		→	
		【ブックトーク】 複数の本の内容の一部を，共通のテーマでつなげて紹介する。			テーマに沿って選んだ複数の本について，紹介する順番，前置きやつなぎのことばなどのシナリオを工夫しながら話す。		→	
	書く	**【読書紹介カード】** 観点に沿って，本の内容や簡単な感想を整理して文を書く。	題名，登場人物，出来事，絵をカードにかく。	好きな本の題名，作者，好きなところをカードに書く。	紹介したい内容を絞り込んだり，心に残る言葉や表現を引用したりしながら，呼びかけや問いかけの文章表現を工夫してカードに書く。		→	
		【読書ゆうびん】 相手を特定して，読んだ本の内容が伝わるように，手紙形式で文を書く。	タイトル，おこったこと，相手への一言あいさつ，イラストをかく。	タイトル，作者名，好きなところ，相手への一言，イラストをかく。	→		→	
作品の内容やよさを要約して伝える。	話す	**【読書発表会】** テーマや紹介する内容・方法を創意工夫し，紹介する。					グループごとにテーマを決めて，紹介・推薦したい内容や方法を話し合い，呼びかけや問いかけの言葉，強弱，間などの話し方を工夫して話す。	
	書く	**【本の帯】** 限られたスペースに作品の内容や薦めたい思いが一目で分かる短い文を書く。			見出しや紹介の言葉，字の大きさ，レイアウトを工夫して書く。	→	→	
		【ポップ】 限られたスペースに本の内容や薦めたい思いが一目で分かる短い文を書く。人目を引くよう形状も工夫する。				本の題名，作者名，見出しや紹介の言葉，字の大きさ，レイアウト，形状を工夫して書く。	→	
		【読書新聞】 登場人物，話の展開など作品の内容が読み手に伝わるよう，項目や書く内容を整理しながら文を書く。				登場人物，筋，物語の構造など本の内容について記事の項目と内容，見出し，割り付けを工夫しながら，書く。	→	
		【本のパンフレット】 作品のおもしろさや薦めたい内容が読み手に伝わるよう，絵や写真を効果的に組み合わせながら項目に沿って文を書く。					作品の見所が伝わるように，項目（コーナー）やその内容，絵や写真と文章の兼ね合い，レイアウトを工夫して書く。	
相手が作品を読む意欲や必要感を高められるよう内容を絞り込んで伝える。	書く	**【推薦文】** 伝える相手の要求や目的も考慮しながら，本のよさを説明する文を書く。					伝える相手がその作品を読む利点を理解できるように，紹介する内容やその順序，文体や文末表現を工夫して書く。	

表３－３　言語活動系統表「解釈したことをもとに書く」

内容　解釈したことをもとに書く

ねらい	領域	言語活動とその特性	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年
		学習指導要領に示された言語活動例との関連→	ア　本や文章を楽しんだり，想像を広げたりしながら読むこと					
作品の設定やあらすじ，登場人物の心情や情景，表現技法などについて，さらに理解を深める。	書く	【人物紹介】 作品の登場人物について，その特徴が分かるように観点に沿って紹介する。	好きな登場人物について，行動や会話を書き抜く。	人物の性格を特徴付ける行動や会話，簡単な役割をまとめる。	登場人物の心に残った行動や会話を引用しながら，作品において人物の果たした役割やその人物に対しての自分の感想・思いを書く。		物語や伝記を読んで，人物の一生について自分の感想や思いを添えながら順を追ってまとめる。	
		【なりきり作文（リライト作文）】 話者・視点人物を他の登場人物に変えたり新しい登場人物を登場させたりしながら，異なる視点で作品を書き直す。	中心人物の視点に立ち，限定した場面について想像した気持ちを吹き出しにしたり，日記形式で短い文にまとめたりする。		対人物の視点に立ち，中心人物への思いについて想像したことを日記形式で表したり，場面を選んで文体や語調を工夫した文章を書いたりする。		登場人物の一人，あるいは作品中で語っていない人（もの）の視点に立ち，人物の生き方や考え方について，それぞれの立場や設定にふさわしい文体や語調を工夫しながら書き直す。	
		【続き話】 作品の内容（設定・事件・主題など）を踏まえて，その後の物語を書く。	人物がどんな人か思い浮かべながら作品のあらすじに続くように書く。	人物の行動や時間，場所など作品のあらましに沿うように書く。	読みとったことや叙述をもとにして人物の性格や人柄に沿って書く。	場面の移り変わりを意識しながら，叙述をもとに人物像に迫りながら書く。	情景描写の工夫・優れた表現を取り入れながら，作品のテーマや人物の生き方に迫りながら書く。	効果的な表現の工夫と優れた叙述を取り入れながら，より深く作品のテーマや人物の生き方・考え方に迫りながら書く。
		【創作文】 経験したことや想像したことについて，伝えたいことが相手に伝わるように構成や表現を工夫して書く。	教材文の繰り返し，直喩，オノマトペなどの楽しく想像できる表現を取り入れながら，身近な出来事について短い文や文章で書く。		教材文の比喩，擬人法，オノマトペ，色彩語などの表現の効果を生かしたり，人物の視点を意識した文体に気を付けたりしながら，自分の体験や想像した出来事を文章で書く。		教材文の構成や表現の仕方，言葉の選び方の違いが与える印象やもたらす表現効果を生かしたり，作品のテーマと自分の体験を重ね合わせたりしながら文章を書く。	

表３－４　言語活動系統表「感想を伝える」

内容　感想を伝える

ねらい	領域	言語活動とその特性	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年
		学習指導要領に示された言語活動例との関連→	エ　物語や，科学的なことについて書いた本や文章を読んで感想を書くこと		ア　物語や詩を読み，感想を述べ合うこと		ア　伝記を読み，自分の生き方について考えること	
作品について感じたことを話し合う。	話す	【読書座談会】 複数の人間で，作品や作者について共通なテーマを設定し，それについて形式張らずに自由に話し合う。			一つの作品の感想を中心に考えを述べ合う。	テーマを決め，それについて自分の考えを述べ合う。	テーマについての自分の考えを明確にし，話したり聞いたりしながら多様な考えを出し合う。	テーマについての自分の考えを明確にし，話したり聞いたりしながら多様な考えを出し合う。
作品を読んで感じたことを文字で伝える。	書く	【感想文】 心に残った場面や，登場人物と自分を比べたり重ね合わせたりしながらもった思いについて文章にする。	読んでおもしろかったところとその理由を書く。	心に残った場面の感想について思ったことや登場人物と自分を比べたことを書く。	書き出しを工夫しながら，心を打たれた場面を中心に書く。	自分の考えを明確にし，作品の内容と自分の体験を関わらせながら書く。	主人公の生き方と自分の関心や生活をつなぎながら書く。	主人公の生き方と自分の生き方との共通点や相違点を明らかにしながらこれからの自分について書く。
		【手紙】 読み取った感想や自分の意見等を，特定の人物への手紙形式で文章にする。 ※（差出人としての立場→送る相手）	登場人物のしたことや場面の様子について思い浮かべたことを書く。（読み手→登場人物）	場面の様子，時や場所，登場人物のしたこや気持ちについて想像を広げたことを書く。（読み手→登場人物）	登場人物の気持ちの移り変わりについて叙述に基づいて想像したことを書く。（登場人物→登場人物）	場面の様子や登場人物の気持ちの移り変わりについて叙述に基づいて想像したことを書く。（登場人物→登場人物）	場面の情景と人物の心情を結びつけて考えたことを中心に主題に迫りながら書く。（読み手→作者）	登場人物の生き方と自分の生き方を重ね合わせて考えたことを中心に，主題に迫りながら書く。（読み手→登場人物）

(3)　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る単元の具体化（単元プランニングシート）

知識・技能の習得と活用を効果的に図るためには，「子どもの実態」を踏まえ，「基礎的・基本的な知識・技能」，「教材」，「単元のねらいに迫る言語活動」を十分に関連付ける必要がある。そこで，単元におけるこれら四つの関連を明確にした単元づくりのために，「単元プランニングシート」を考案した（次頁**図６**）。

この「単元プランニングシート」を作成することで，子どもたちがこれまでにどのような知識・技能を身に付けてきたのか，単元でどのような知識・技能を，どのような教材と言語活動を通して身に付けさせていくのか，学習したことがどのような活用の姿につながっていくのか，という指導に当たっての基本的な考え方を明確にすることができると考える。

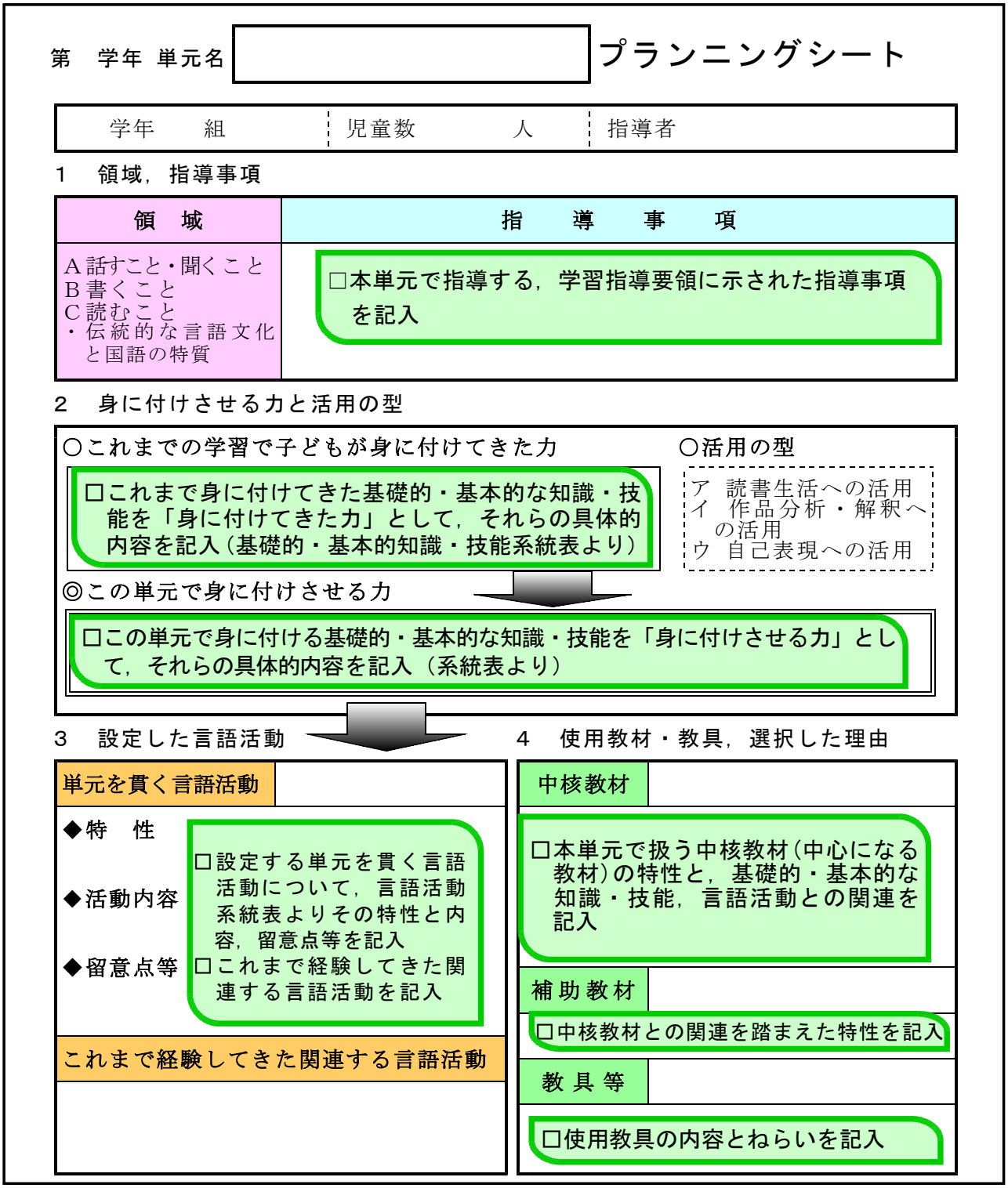


図６　単元プランニングシート

(4)　基礎的・基本的な知識・技能の効果的な習得と活用を図る学習過程の工夫

知識・技能の習得を図る単元の学習の流れについて，まず，単元の導入時に言語活動を設定し知識・技能の習得の動機付けを行うことで学習の見通しを子どもにもたせるようにしたい。

次に，習得した知識・技能の活用を図る言語活動を段階的・反復的に設定することで子どもに習得した知識・技能を振り返らせながら活用を試行させ，単元を貫く言語活動へ向けての手応えをもたせるようにしたい。さらに単元末では，学習を通して習得した知識・技能をこれからの自分の言語生活に生かしていこうとする意欲をもたせるようにしたい。

このような，基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用が効果的に行われるような学習過程を工夫した。学習過程と，各段階における主な学習活動内容を**表４**に示す。

表４　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習過程

学習過程	主　な　学　習　活　動
つなぐ	○　これまでの学習で習得してきた知識・技能や経験した言語活動を振り返る。 ○　新しい教材や言語活動と出会い，これまでの学習との共通点や相違点を考える。
つかむ・見通す	○　新しい教材を見通し，内容や表現の特徴について初発の感想をもつ。 ○　初発の感想を通して，これまでに習得してきた知識・技能では解決できない課題に気付き，新しい知識・技能を習得する必要感をもつ。 ○　知識・技能を総合的に活用する言語活動を設定し，学習計画を作る。
調べる・深める	○　教材の読みを中心にした課題解決を通して，これまで習得した知識・技能の活用と新しい知識・技能の習得を行う。
まとめる	○　中核教材での学習を通した知識・技能の習得の状況を振り返り，それらを補助教材の読みで活用したり，「生かす」過程での，単元を貫く言語活動における活用の見通しをもったりする。
生かす	○　これまでに習得した知識・技能を活用しながら，単元を貫く言語活動に取り組んだり交流したりすることで，習得をより確かなものにする。
振り返る	○　単元を通して，新しい知識・技能の習得と活用の自己評価を行い，これからの言語生活に見通しをもつ。

また，子ども自身が，単元を貫く言語活動を見通し，知識・技能の習得と活用を意識しながら意欲的に学習に取り組むための学習課題の工夫も必要である。そこで，基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図るための「単元全体の学習課題」と「一単位時間の学習課題」について，その内容，設定の仕方，具体例を整理した（**表５**）。

表５　知識・技能の習得と活用を意識しながら意欲的に学習に取り組むための学習課題

単元全体の学習課題	内　容	子どもが習得した知識・技能を活用して行う「単元のねらいを達成する言語活動」への見通しと目的意識をもてるよう，単元の導入段階で設定する全体的な課題。単元を貫く言語活動の具体的内容を盛り込むようにする。
	設定の仕方	ア　初発の感想やこれまで経験した言語活動の振り返りから，学習したことを表現するのに最適な言語活動について話し合わせ，設定させる。 イ　教師が単元を貫く言語活動に関わるモデルを示すことで，子どもに具体的な学習のイメージをもたせ，それをもとに設定させる。
	課　題	○　さしえをもとに，かみしばいをつくってはっぴょうしあおう。（１年） ○　シリーズを読み，読書カードでおすすめの作品をしょうかいし合おう。（３年） ○　「命の大切さ」を伝える絵本を作ろう。（６年）
一単位時間の学習課題	内　容	単元全体の学習課題解決に向けて，中核教材の読みを中心にこれまでに習得してきた知識・技能の活用や，新しい知識・技能の段階的な習得を行う具体的な課題。作品の場面に合わせた内容になることが多い。
	設定の仕方	初発の感想や文学的な文章の学習の基本的な流れを基に，教師が整理したものを提示したり，子どもに話し合わせたりしながら設定させる。単元を貫く言語活動を行うために必要な知識・技能の習得が重点的・段階的に行われながら作品の内容理解も図れるよう留意する。
	課　題	○　くじらぐもにとびのろうとするようすがよくわかるように，くふうしておんどくしよう。（１年） ○　お父さんの「一つだけ」にこめられた思いを考えよう。（４年） ○　色彩語に注目して五月と十二月を対比し，感想を話し合おう。（６年）

これらの考え方をもとに，「第４学年グループ・ブックトークで本の世界を楽しもう（全10時間）」を例に，基礎的・基本的な知識・技能の効果的な習得と活用を図る指導計画モデルを作成した（次頁**図７**）。

本単元に関連する基礎的・基本的な知識・技能の具体的内容は次のとおりである。

本単元までに習得してきた基礎的・基本的な知識・技能の具体的内容	①　起承転結で場面を分け，クライマックスをとらえる ②　叙述を手がかりに人物の気持ちを想像する ③　シリーズや民話などを読み，人物や出来事，おもしろさについて交流し比べ合う
本単元で習得させる基礎的・基本的な知識・技能の具体的内容	④　ファンタジー作品の構造を理解する ⑤　表現や描写等の叙述を手がかりに，表現の工夫を考える ⑥　同ジャンルの作品を共通の視点で複数読み，交流し比べ合う

①～⑥の習得・活用の場

4年　ブックトークで本の世界を楽しもう　指導計画

過程	時	主な学習活動	習得	活用	活動の関連
つなぐ	1	これまで読んできた本のおもしろさをしょうかいしよう。 1　これまでの読書生活を振り返り，好きな本を紹介し合う。 2　教師のブックトークを聞く。 3　「三年とうげ」と，「白いぼうし」を読み，共通点と相違点について話し合う。 4　ファンタジーという作品ジャンルを知る。		② ③	
つかむ・見通す	2	ファンタジーのおもしろさを伝える学習計画を立てよう。 1　「白いぼうし」の初発の感想を話し合う。 単元学習課題 グループ・ブックトークで，ファンタジー作品のおもしろさをしょうかいしよう。 2　単元の学習課題を話し合う。 3　学習計画を立てる。		②	
調べる・深める	3	「白いぼうし」のあらすじを場面ごとにまとめよう。 1　これまで学習してきたことを活かして，「白いぼうし」のあらすじを整理する。		①	
	4	女の子の正体について，文章表現をもとに考えよう。 1　女の子の正体について，表現や叙述を根拠に話し合う。 2　女の子がちょうであるとすれば，なぜ松井さんのタクシーに乗ったのかを考える。 3　題名でもある白いぼうしの役割について考え，関係図にまとめる。 4　読み手の想像をかき立てる作者の表現の工夫についてまとめる。	⑤	②	
	5	不思議な世界の入り口と出口を調べ，白いぼうしのブックトーク原こうを書こう。 1　物語で起こった不思議な出来事を確認する。 2　不思議な世界の始まり(入り口)と終わり(出口)を考える。 3　不思議な出来事のきっかけについて考える。 4　ファンタジー作品の構造をワークシートにまとめる。 5　白いぼうしのブックトーク用原稿をつくる。	④ ⑤		
まとめる	6	他のファンタジー作品を読んで，「入り口と出口」，「きっかけ」「作者の表現の工夫」をさがそう。 1　「つり橋わたれ」を読み，「白いぼうし」と比べながら「入り口と出口」「きっかけ」「作者の表現の工夫」を調べる。 2　二つの作品の共通点や相違点について話し合う。 3　「つり橋わたれ」のブックトーク用原稿をつくる。	④ ⑤ ⑥	④ ⑤ ⑥	
生かす	7 8	グループ・ブックトークのじゅんびをしよう。 1　自分の選んだ他のファンタジー作品を読む。 2　「不思議な出来事」「きっかけ」「作者の表現の工夫」の視点でブックトーク用原稿をつくる。 3　グループごとに分担を決め，ブックトークの練習をする。		④ ⑤ ⑥	
	9	グループ・ブックトークをしよう。			
振り返る	10	1　ブックトーク発表会をする。 2　単元の学習を振り返り，身に付いた力を確認する。	④ ⑤ ⑥	④ ⑤ ⑥	

単元を貫く言語活動「ブックトーク」へ向けて、学習の見通しと目的意識をもたせる単元の学習課題

第六時→ブックトークにつながる、補助教材を使って習得した知識・技能を試す（活用する）学習活動

単元を貫く言語活動

図７　子どもの知識・技能の意図的な習得と活用を図る指導計画モデル（　活動のつながり）

(5)　習得と活用を図る一単位時間の指導における具体的な手だての工夫

ア　習得と活用をつなぐワークシートの工夫

ワークシートには，焦点化した学習内容を構造的にとらえさせることができるよさがある。そのよさを生かし，子どもたちの知識・技能の習得と活用を促す手だての一つとして，ワークシートの工夫を行った。

具体的には，知識・技能を習得させるために教材文から読ませたい内容について，焦点化してまとめられるようなワークシートを準備する。その際，ワークシートの内容構成が，単元を貫く言語活動と関連するよう工夫する（**図８**）。

子どもたちが習得した知識・技能の活用を図る段階では，習得の段階で使用させたワークシートの構成や内容を生かしたものを準備し，使用させるようにする。

このようなワークシートの工夫を行うことで，子どもたちは単元を貫く言語活動をイメージしながら中核教材を読むことができるとともに，中核教材での学習経験をスムーズに補助教材の読みや言語活動に生かすことができると考える。また，読みの力が不足している子どもへの支援にもなると考える。

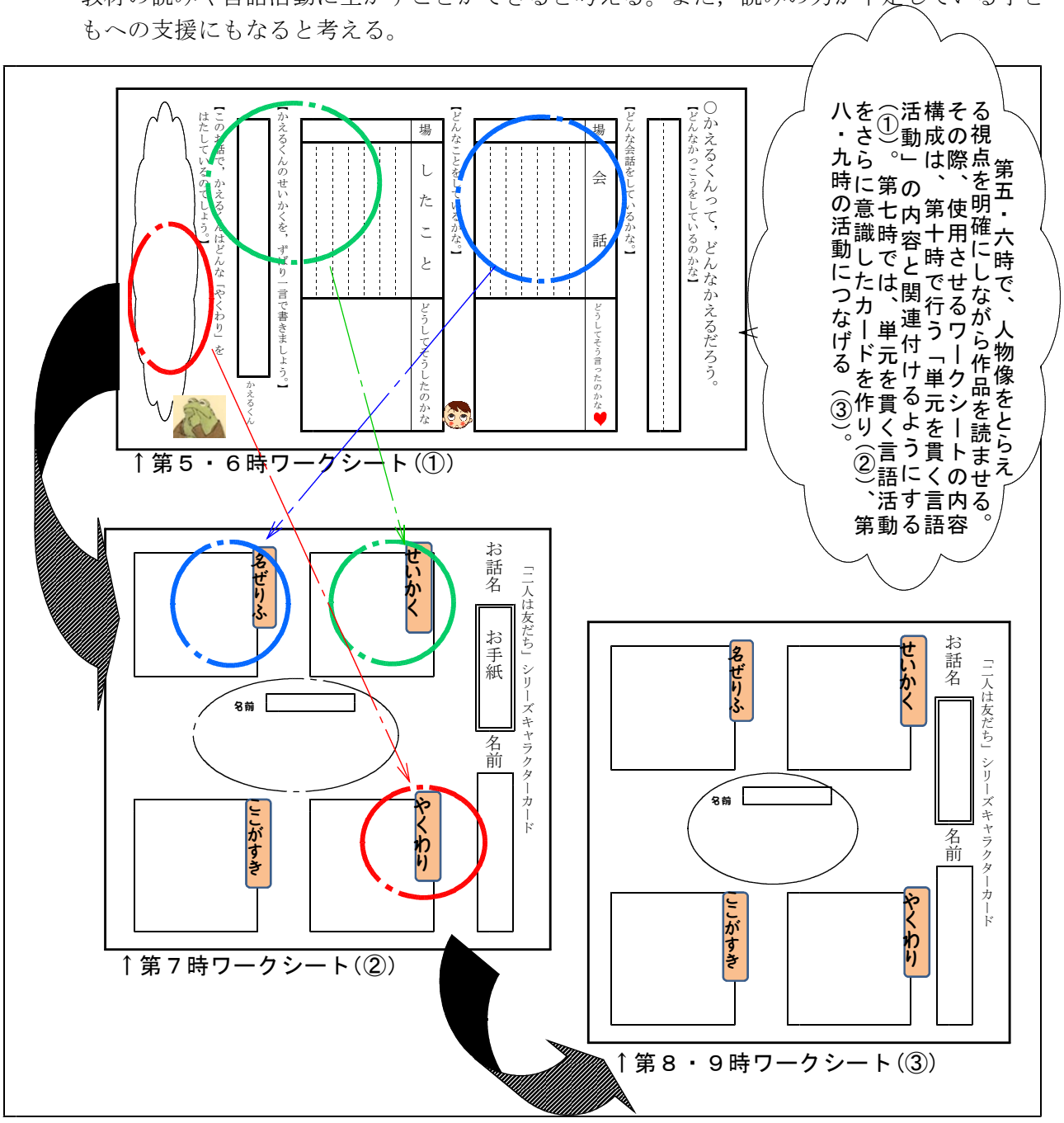


図８　習得と活用をつなぐワークシート例（２年「シリーズを読み，お気に入りの人物カードを作ろう」）

イ　習得と活用を促す発問・指示の工夫

子どもたちが，基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を意識した学習活動を行うためには，教師の発問・指示も習得・活用の視点に沿って工夫する必要がある。

具体的には，これまでどのような学習を通してどのような力を身に付けてきたのか，身に付けてきた力でどのような課題を解決していくのか，学習を通してどのような力が新たに身に付いたのかなど，系統的に学習が行われていることの自覚と理解をもたせるような発問や指示を取り入れる。このような発問・指示を行うことで，子どもは，これまでの学習，今行っている学習，これからの学習をつなげながら基礎的・基本的な知識・技能をとらえ，意欲的にそれらの習得・活用に取り組むことができると考える。

単元の学習過程に沿った，子どもに知識・技能の習得と活用を意識させながら具体的な学習へとつなぐ発問・指示の例を**表６**に示した。さらに，「調べる・深める」過程における指導事項「ウ　文学的な文章の解釈」に関わる発問・指示を**表７**に示した。

表６　単元における習得と活用を促す発問・指示例

過程	ね　ら　い	具　体　的　な　発　問　・　指　示　例
つなぐ	前単元までに学習した知識・技能や言語活動の想起を促し，新しい単元との共通点や相違点を考えさせる。	【活用】○　これまでの物語の学習で，どんな読む力を身に付けてきましたか。 ○　これまで物語文の学習のまとめの発表では，どんな活動をしてきましたか。その活動にはどんな特徴がありましたか。 ○　この物語の書き方で，何か気付いたことはありませんか。 ○　この物語の構成や表現と，これまで学習してきた物語と比べて何か違うところはありませんか。
つかむ・見通す	これまでの学習経験を踏まえさせながら，単元の学習に見通しをもたせる。	【習得】○　先生のモデルをみて，気が付いたことはありますか。 ○　この学習を通してどのような力を身に付けていきますか。 【活用】○　この物語の学習のまとめの発表に一番ぴったりな活動は何でしょう。 ○　最後の発表につながる，単元全体の学習課題を考えましょう。 ○　これまでの物語文の学習を参考にしながら，学習計画を立てましょう。
調べる・深める	これまでに身に付けてきた知識・技能も活用させながら，中核教材の読みを通して，新しい知識・技能を習得させる。	【習得】　**※教材文を具体的に読み進めながら知識・技能の習得を図る「ウ　文学的な文章の解釈」に関わる発問は別掲（→表７）** ○　今まで学習したことと何が違いますか。 ○　この時間に学習した読みの方法をまとめましょう。 【活用】○　これまでと同じ方法でできそうですか。 ○　前学習した方法と同じ方法で考えてみましょう。 ○　今の箇所と同じような箇所を探しなさい。
まとめる	習得してきた知識・技能を補助教材の読みで試行させることで習得の状況を確認させる。	【習得】○　これまでの学習でできるようになってきたことを振り返りましょう。 ○　学習したことを考えながら，もう一度作品を読み直してみましょう。 【活用】○　これまで学習した表現が，この作品（補助教材）にも使われていますか。それはどこに使われていますか。 ○　前に使ったシート（ノート）を振り返って参考にしましょう。 ○　どのように表現したら，作品の良さが伝わりますか。
生かす	知識・技能を「単元のねらいを達成する言語活動」で活用させることで，習得を確かなものにさせる。	【活用】○　これまでの学習をどのように生かせばよいか考えながら発表の準備をしましょう。 ○　友達のよさを参考にしながら準備を進めましょう。 ○　発表を聞きながら友達の考えと自分の考えを比べましょう。 ○　これまでの学習が生かされるような，この発表会のポイントをまとめましょう。 【習得】○　自分や友達の発表のよさや改善点を伝え合いましょう。 ○　ポイントに沿って，発表を振り返りましょう。
振り返る	学習全体を通しての知識・技能の習得を実感させ，これからの言語生活での活用について見通しをもたせる。	【習得】○　この学習を通して，自分ができるようになったことは何でしょう。 【活用】○　この学習でできるようになったことを，家の人に伝える文を書きなさい。 ○　この学習でできるようになったことを使って，これからの生活でできそうなことは何ですか。

表７　「調べる・深める」過程における「ウ　文学的な文章の解釈」に関わる発問・指示例

項　目		発　問　・　指　示　例
構成	題　　名	○　題名からどんな話だと思いますか。 ○　この題名の「・・・」とはどういう意味だと思いますか。 ○　これまで学習した物語に，この題名の付け方と似た付け方をした物語はありませんか。 ○　作者がこの題名を付けた理由は何だと思いますか。 ○　あなたなら，どんな題名を付けますか。
	登場人物	○　この話にはだれが出てきましたか。 ○　場面ごとに登場人物をまとめなさい。 ○　中心人物，対人物はだれですか。 ○　中心人物Ａは，物語の始めと終わりでどのように変わりましたか。 ○　対人物Ｂは，中心人物Ａにとってどんな役割を果たしていますか。
	時，場所	○　いつの時代，いつの季節の話ですか。 ○　一日のうちのいつのことですか。（朝，昼，夜） ○　場面ごとに，時と場所をまとめなさい。 ○　作者はどうしてこの場所を事件の舞台に選んだのでしょう。
	場　　面	○　挿絵の出来事はどこからどこまでですか。 ○　この話はいくつの場面に分けられますか。 ○　場面が変わったことが分かる言葉を探しなさい。 ○　この場面を絵に描くとしたら，どんな絵にしますか。
	事　　件 （できごと）	○　この話は，いくつの事件（できごと）からできていますか。 ○　この事件（できごと）が起こったきっかけは何ですか。 ○　それぞれの事件（できごと）で共通していることは何でしょう。
	文章構成	○　この話を起承転結で分けると，それぞれどこからどこまでですか。 ○　この話の山場（クライマックス）はどこですか。 ○　この作品の構成で気付いたことはありませんか。 ○　この作品の構成の仕方にはどのような効果がありますか。
	あらすじ	○　この話は，だれが，いつ，どこで，どうした話ですか。 ○　この場面（話）を一文で表しなさい。
	人柄，性格	○　登場人物の～さんは，どんな人だと思いますか。それはどうしてですか。 ○　登場人物の人柄がわかる部分を探しなさい。 ○　「～」という表現から，登場人物の性格を想像しなさい。
	主　　題 テ　ー　マ	○　作者が伝えたいことはどんなことでしょうか。 ○　この作品からあなたが受け取ったメッセージは何ですか。
表現	心　　情	○　このときの主人公の気持ちがわかる部分を探しなさい。 ○　この登場人物の行動から，どんな心が分かりますか。 ○　主人公の気持ちが大きく変化したのはどの部分ですか。 ○　この会話文はどのように音読すればいいですか。
	会　　話	○　「・・・・」はだれの言葉ですか。 ○　「・・・・」という言葉に，どんな気持ちが込められていますか。 ○　どうして「・・・・」と言ったのでしょう。
	情　　景	○　この情景描写は登場人物のどんな心を表しているでしょう。 ○　この情景描写にはどんな効果があると思いますか。
	音　・　色	○　この作品に多く出てくる色はどんな色ですか。 ○　この色（音）からどんなことをイメージしますか。 ○　これらの色や音が，作品にどんな雰囲気をあたえていますか。
	表現技法	○　この書き方でどんなことが強調されますか。 ○　この書き方にはどのような効果がありますか。 ○　この表現を使って，短い文を書きなさい。
視点	語り手 視　　点	○　この話の語り手はだれですか。 ○　この話は，だれの視点から書かれていますか。 ○　この場面で，語り手はどこから見ていますか。 ○　視点が変わったのはどの場面ですか。そのことで，どのような効果がありますか。